次米みのり祭で五つの舞台
史実を基に新たな祭りに

約1300年前、恵那の米が天武天皇に献納された歴史の事実を基に、新たな祭り「恵奈の里次米みのり祭」がことし初めて開催されました。米の田植えから天武・持統天皇陵に献納するまでを五つの催しで再現。9月22日に市街地で開催された、みのじのみのり祭では「次米献納行列」を再現し、食の祭り「みのじのみのり祭」と、古来の行事を「米」で結び付けました。

ここでは、恵奈の里次米みのり祭などについて紹介します。

恵那を記した木簡が出土

恵那は、水がきれいで土地が肥えており、古代から米作りが盛んに行われてきました。平成9年、恵那のことが記載された木簡（荷札）が、奈良県明日香村の飛鳥池遺跡で発見されました。その木簡には、677（天武6）年に恵那で収穫された米「次米」を阿利麻という集落の代表者が朝廷（天武天皇）に献上したことが書かれていました。次米は、天皇が神に五穀の収穫を感謝し、神に供え、共に召し上がる米のようです。天皇に献納された恵那の次米は、特別な意味を持ったものだったのです。木簡には、現在使う「恵那」の字を、昔用いていた「恵奈」として表記されています。

●飛鳥池遺跡で発見された木簡

（裏面）（表面）

「丁丑年十二月三野国刀支評次米」

これは677年12月に美濃国土岐郡から届いた次米

「恵奈五十戸造 阿利麻 春人服部枚布五斗俵」

恵那の五十戸造の阿利麻が服部枚布に精米させて献上した5斗（約30キロ）※俵

（写真提供：奈良文化財研究所）

▶みのじのみのり祭で恵那駅前の中央通りを歩く次米献納行列

史実を生かし献納を再現

木簡に書かれた史実などを基に、現代で再現する企画が持ち上がりました。恵那の米を明日香村にある天武・持統天皇陵（当時の天皇の天武天皇の墓）に献納するというものです。

恵奈の里次米みのり祭実行委員会では、この行事を「恵奈の里次米みのり祭」として、一連の催しを昨年の8月から企画。ことし5月に行った「お田植え祭」を皮切りに、9月の「抜き穂祭」や「次米献納行列」、「恵那のお米パビリオン」、10月の「次米献納」の五つを開催しました。

※斗＝尺貫法での体積（容積）の単位。時代により1斗の量が異なる。

▲抜き穂祭では歌や踊りに合わせて稲刈り

昔の恵那はどんなところ

史実の再現には、昔の恵那を振り返る必要があります。しかし、この木簡以外には昔の恵那の様子が分かる書き物などはないのが現状でした。

長島町正家に正家廃寺の跡があります。伽藍配置や出土品などから、8世紀ごろに重要な役割をしていた寺だったとして、平成13年に国の史跡に指定されています。実行委員会では、木簡と同時代の正家廃寺に注目。当時この辺りが中心地であっただろうと、正家の田で献納する米を作ることにしました。

まちづくりの起爆剤に

実行委員会では、この催しは地域振興に結びつくと考えました。恵那のおいしい米を再認識する機会、農業者の減少を抑える効果、正家廃寺跡や正家の田を基にした長島町のまちづくりへの効果、米菓子の開発や需要増加などです。多くの市民が関わることで、市が活性化することを目指しました。

次米みのり祭を祭りとして盛り上げるために、さまざまな工夫を加えました。お田植え祭や抜き穂祭には、歌や踊りを制作。衣装もそろえ、盛大な祭りを創出しました。

9月22日と23日に行ったみのじのみのり祭は、秋の味覚の祭り。次米の行事は、米をテーマにしており、みのじのみのり祭の趣旨に適合。祭りでは、22日には次米献納行列の再現、23日にはお米のパビリオンを開催し、祭りを一層盛り上げました。

天武天皇陵へ次米を献納

10月9日、恵那の田で育て収穫した米は、明日香村の天武・持統天皇陵で行われた「天武忌」で、献納することができました。

次米みのり祭は、新たな恵那の祭りとして、今後も続けられる予定です。

恵奈の里次米みのり祭実行委員会

これからも祭りを続けていきたい

会長 河村尚徳（なおのり）さん（長島町正家）

次米みのり祭は、企画が持ち上がったものの、初めてのことだったので、手探り状態でした。全国各地の同様な祭りを研究する中で、祭りに使う衣装や歌や踊りの構想が生まれ、楽しい祭りにすることができました。

祭りには、みんなが協力してくれたのがありがたかったです。特に、正家地区の人たちが、抜き穂祭での稲刈りや当日の準備など協力的にやってくれました。踊り手にも女性がたくさん参加していただけました。

次米は、正家廃寺跡の近くの私の田で作りました。春のお田植え祭の後には、水の管理や草刈りなど、田の世話をしてきました。立派に実ってくれてやれやれです。次米として奉納できたことは、ありがたいことだと思います。

ことしの祭りは初年度にしては上出来。これからも続けていきたいと思います。そのためには、歌や踊り手の育成、恵那の米のブランド化など、いろんな仕掛けを考えていく必要があると思います。

正家廃寺跡（長島町正家）

本格的な古代寺院

正家廃寺跡は、東西110メートル、南北70メートルの敷地に法隆寺式に配置する伽藍を持つ本格的な古代寺院跡。国宝玉虫厨子と同じ柱の配置の特異な構造の金堂や、希少な鉄製風鐸や奈良三彩などの遺物、日本最古の床板の竪穴住居などが特色です。8世紀に造営、9世紀後半に主要伽藍の火災で廃絶したと思われます。

市では、史跡公園として整備する予定です。

▶塔の柱が立っていた礎石

天武・持統天皇陵（奈良県明日香村）

2人の天皇を合葬

天武天皇は、兄の天智天皇の遺志をつぎ、中央集権国家を形成しました。壬申の乱に勝利し皇位に就き、686（朱鳥1）年に病で崩御し、葬られました。持統天皇は、天武天皇の皇后。702年に崩御し、合葬されました。

▶本来の墳形は八角形

▶迫力ある御神輿競演（最優秀賞の御所之前組）

みのじのみのり祭 秋の味覚を満喫

9月22日・23日、恵那市街地で開催された「ENA 2012みのじのみのり祭」。御神輿競演や秋の味覚などが盛りだくさんでにぎわったお祭りを写真で紹介します。

▲イベントステージには大勢が参加

▲五平バーガー

▲恵那ぐるめ広場でえなハヤシを販売

▼松茸ごはん

▲アユの塩焼き

◀松茸ごはんに多くの人が並ぶ

◀ふるさとまちじまんで売られた五平餅

◀祭りの最後は盛大な餅投げ大会

一連の催しに仕立てる

田植えから次米献納までを一連の催しにした次米みのり祭。ここでは、五つの次米みのり祭を紹介します。

五つの次米みのり祭

その1 恵奈の里お田植え祭

田植え歌や踊りを制作

5月19日、長島町正家の正家廃寺跡近くの田で、次米の豊作を願い「お田植え祭」が行われました。祭りでは、作曲家の寺本建雄さん（東京都）が作詞作曲した田植唄とお田植えおどりを披露。約300平方㍍の田んぼに、早乙女20人が味の良い農林48号という品種を手植えし、歌って踊って行う田植えで、詰め掛けた見物客らを楽しませました。

恵那には素晴らしい歴史があり、恵那に伝わる物語を次世代に伝承していくための新たな「お米」のお祭りの始まりです。

▲早乙女が1列に並んで田植え

その2 恵奈の里抜き穂祭

実った稲穂を収穫

9月15日、春に田植えをした田で「抜き穂祭」を開催。県無形民俗文化財の串原の中山太鼓で幕を開けました。「抜き穂」と呼ばれる稲刈りでは、お田植え祭と同様、寺本建雄さんが豊穣を祝う「恵奈の次米みのり音頭」を作詞作曲。踊りとともに初めて披露されました。歌と演奏に合わせて、田の周りで23人の女性の踊り手が踊る中、男若衆11人が実った稲を刈っていきました。田を囲んだ観客らは、拍子を取りながら楽しそうに見ていました。刈った稲は、束にして、乾燥のため、すぐにはざ掛けされました。

▲踊り手が踊る中、刈った稲を束ねる

その3 次米献納行列

献納道中を再現

9月22日のみのじのみのり祭の日、恵那駅前通りで「次米献納行列」の再現が行われました。古代の装束姿で白馬に乗った恵奈の里の長官「阿利麻」を先頭に約100人が山車を引いたり、踊ったりしながら練り歩きました。

◀行列には踊り手も

その4 お米パビリオン

米の食品を販売

9月23日、みのじのみのり祭の恵奈の次米のコーナーで、次米の紹介や栗ご飯、五平バーガー、ほおば寿司などの米食品の販売などが行われました。

▼米食品の栗ご飯を販売

その5 次米献納

天武天皇陵に献納

10月9日、恵奈の里次米実行委員会から50人が、天武・持統天皇陵（明日香村）の前庭で行われた「天武忌」に参加。恵那で収穫した次米を献納しました。発見された木簡に書かれた量と同じ米約30㌔を祭壇に供えました。天武忌は、薬師寺（奈良市）が寺の建立を発願した天武天皇をしのぶ行事です。

また前日に薬師寺で行われた天武忌・万燈会でも、次米を奉納しました。

▶米俵を祭壇に供える